

BAROQUE 古楽最前線! 躍動するバロック 2018

中世・ルネサンスを経ての開花 — 初期バロックまで

Vol. 2

[企画・監修: 礒山 雅]

マリア崇敬の一大記念碑、華やかに、また優雅に

モンテヴェルディ 《聖母マリアの夕べの祈り》

Claudio Monteverdi: Vespro della Beata Vergine

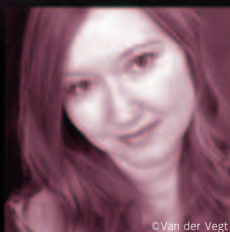


RIAS Kammerchor

©Matthias Heyde



Justin Doyle



Dorothee Miels



Margaret Hunter



Thomas Hobbs



Andrew Staples



Capella de la Torre

ジャスティン・ドイル (指揮)
 ドロテー・ミールズ、マーガレット・ハンター (ソプラノ)
 トマス・ホブズ、アンドリュー・ステープルズ (テノール)
 RIAS室内合唱団
 カペラ・デ・ラ・トーレ

2018 | 11/7 [水] 19:00 開場 18:30

S席 ¥8,000 / A席 ¥6,000 / 学生 ¥4,000

いずみホールフレンズ 年会費分キャッシュバック

特別価格 S席 ¥6,000

いずみホールフレンズ会員 A席 ¥5,400

古楽最前線! 2018 (Vol.1~5) 5公演セット券 ¥30,000

好評発売中!

 Izumi Hall

<http://www.izumihall.jp>

いずみホール・スタッフ・ブログ <http://ameblo.jp/izumihall/>
 公式twitter http://twitter.com/izumi_Hall

パロックスシリーズ facebook更新中 <http://www.facebook.com/izumihall.project/>

チケットのお問い合わせ・お申し込みは

いずみホールチケットセンター 06-6944-1188 [AM10:00~PM5:30 日曜・祝日 休業]

いずみホール
 オンライン チケットサービス
www.izumihall.jp/ticket/
 24時間・座席指定で予約・購入できません

チケットぴあ pia.jp/t 0570-02-9999 Fコード: 104-465

ローソンチケット 0570-000-407 <http://l-tike.com/> Lコード: 53481

e+ (イープラス) <http://eplus.jp/>

主催: いずみホール [一般財団法人 住友生命福祉文化財団]

後援: 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館 特別協力: ドイツ文化センター



文化庁文化芸術振興費補助金
 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
 文化庁 独立行政法人日本芸術文化振興会

研究成果に基づく 新しい演奏スタイルの《ヴェスプロ》が日本初上演

いま、最もエキサイティングな音楽領域、それが古楽です。研究・演奏は続々とアップデートされ、豊かさを増し続けています。2020年度にかけて、生命力に満ちたこの古楽の世界へと皆様をご案内します。時空を超えてバッハにいたる長い旅は、2018年秋、古楽の“源流”中世・ルネサンスから始まります。

モンテヴェルディの最高傑作として多くの人に愛され続けている《聖母マリアの夕べの祈り》の新しい響きをお届けします。今回の演奏では、モンテヴェルディ研究の権威ジルケ・レオポルト博士の提案に基づき、新たな楽曲編成と使用楽器を取り入れています。モンテヴェルディ生誕450年の2017年にベルリン音楽祭で発表されたこの形式は、「響きの色彩を豊かに蘇らせた。(藤野一夫/NIKKEI STYLEより)」と評価され、高い演奏効果をもたらしました。

出演は昨年音楽祭と同じ、ジャスティン・ドイル率いるRIAS室内合唱団と古楽器アンサンブルのカペラ・デ・ラ・トーレという組み合わせです。RIAS室内合唱団は、ルネサンスやバロック作品はもちろん幅広いレパートリーを誇り、現代ドイツ合唱界を牽引する存在です。ルネサンス時代のオリジナル楽器を用いたクオリティの高い演奏が持ち味のカペラ・デ・ラ・トーレとの躍動感のあるアンサンブルにご期待ください。ソリストは、ドロテー・ミールズやアンドリュー・ステーブルズなど世界的な古楽アンサンブルとの共演を重ねる実力派揃い。日本国内では唯一の新しい《聖母マリアの夕べの祈り》演奏をお聴き逃しなく。

ジャスティン・ドイル (指揮) Justin Doyle

イギリス・ランカスター生まれ。ウエストミンスター大聖堂聖歌隊に所属した後、ケンブリッジのキングス・カレッジで学んだ。2017年RIAS室内合唱団の芸術監督および首席指揮者に就任。リーズのオペラ・ノースに頻繁に出演するほか、ランカスターのハフナー管弦楽団、マンチェスター大学合唱団の音楽監督等も務めている。また、ハレ管弦楽団、ロイヤル・ノーザン・シンフォニア、マンチェスター・カメラータなどにも客演し、16世紀から現代までの、室内合唱から大規模なオラトリオやオペラまで、幅広いレパートリーを誇っている。



© Matthias Heyde

RIAS室内合唱団 RIAS Kammerchor

1948年にベルリンのRIAS (アメリカ軍占領地区放送局)によって設立された。2018年は設立70周年を迎える。ルネサンスとバロック音楽の歴史的唱法から、様々な特殊な唱法が要求される現代作品まで、幅広い時代と様式の作品をレパートリーとしている。芸術的特徴は粉れもなくその豊かな多様性にあり、世界各地で熱狂的に迎えられている。2017年にはジャスティン・ドイルが芸術監督および首席指揮者に就任。ルネ・ヤコブス、ベルリン古楽アカデミー、フライブルク・バロック・オーケストラ、アレクサンダー・リープライヒ指揮ミュンヘン室内管とはパートナーシップを構築している。カラヤン、バーム、マゼール、近年ではアーノクール、ブリュッヘン、ノリントンといった古楽界のスターたちとも共演し、注目を集めている。1995年にはハルモニア・ムンディ・フランス・レーベルと専属契約を結び、録音も多く、ドイツ・レコード批評家賞、グラモフォン賞、フランス・クラシカ誌 Choc de l'annee賞、エコー賞など多くの賞を受けている。2010年にはイギリスの音楽誌グラモフォンはRIAS室内合唱団を世界トップ10合唱団のひとつに選んだ。

rias-kammerchor.de

当時の器楽曲をまじえたプロジェクト

ジルケ・レオポルト博士 (モンテヴェルディ研究者)

モンテヴェルディの《聖母マリアの夕べの祈り》は、ベートーヴェンの交響曲のようにがっちり構成された作品ではありません。それは、さまざまな機会に応じて配置を入れ替え、編成を変えて上演することのできる、小曲のゆるやかな連合体なのです。作品のタイトルが、すでにそのことを物語っています。今日では、作品の典礼的な性格を強調するために、グレゴリオ聖歌を補って上演することがよく行われます。今回の上演ではそれに代えて、モンテヴェルディの周辺で生まれた器楽曲を取り入れることでスコアを充実させました。それにより、モンテヴェルディの聖母音楽において器楽様式と声乐様式、ポリフォニーと名人芸、民俗音楽と芸術音楽、教会と劇場がどれほど密接にかかわり合っているかが示されるはずで。

(訳:磯山 雅)

ドロテー・ミールズ (ソプラノ) Dorothee Mields

17・18世紀の音楽をレパートリーとする世界的な歌手の一人。コレギウム・ヴォカール・ゲント、フライブルク・バロック・オーケストラ、18世紀オーケストラ、オランダ・バッハ協会、RIAS室内合唱団、バッハ・コレギウム・ジャパン等に参加。グスタフ・レオンハルト、フランス・ブリュッヘン、ヨス・ファン・フェルト・ホーヴェン、フィリップ・ヘレヴェツェ、鈴木雅明等と共演している。また、ライプツィヒ・バッハ音楽祭、ボストン古楽音楽祭、ウィーン音楽祭、ヘンデル・フェスティバル(ハレ)などに招かれている。

マーガレット・ハンター (ソプラノ) Margaret Hunter

ニューイングランド生まれ。ボモナ・カレッジ(カリフォルニア)、オックスフォード大学、ロンギー音楽院(ボストン)で学んだのち、ドイツ学術交流会の奨学金を得て、プレーメンで学んだ。バルタザール・ノイマン合唱団、ウェザール・ネッザンズ=プレーメン、カントウス・チューリンギア、フライブルク・バロック・オーケストラなど、古楽の分野の有名なアンサンブルと定期的に共演。現代音楽にも造詣が深い。多くの国際フェスティバル、オペラに出演。ラジオ放送、録音多数。

トマス・ホブズ (テノール) Thomas Hobbs

16~18世紀の重要な作品のソリストとしてヨーロッパやアメリカの著名なバロック・アンサンブルに参加している。フィリップ・ヘレヴェツェが率いるコレギウム・ヴォカール・ゲントや、ラファエル・ピジョン率いるアンサンブル・ビグマリオンとの共演を頻繁に行っている。今後、コレギウム・ヴォカール・ゲントや、オランダ・バッハ協会等、古楽アンサンブルとの共演が数多く予定されている。オペラ出演や録音も数多く高い評価を獲得している。

アンドリュー・ステーブルズ (テノール) Andrew Staples

アンドリュー・ステーブルズは、同世代の歌手の中で飛び抜けた才能を持つテノール歌手である。サイモン・ラトルとは定期的に共演するほか、ダニエル・ハーディング、ヤニック・ネゼ=セザン等、現代を代表する指揮者と共演。ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、スウェーデン放送交響楽団、バイエルン放送交響楽団、ロンドン交響楽団等、名だたるオーケストラと共演を重ねる。コヴェントガーデン王立歌劇場には定期的に登場するほか、ザルツブルク音楽祭でも活躍を見せている。

カペラ・デ・ラ・トーレ Capella de la Torre

中世・ルネサンス音楽を専門とするドイツのピリオド楽器管楽アンサンブル。2005年にミュンヘン生まれのショム奏者カテリーナ・ポイムルによって創設され、16世紀スペインの作曲家フランシスコ・デ・ラ・トーレの名前と、中世の吟遊詩人が塔から音楽を奏でた故事にちなむスペイン語の「デ・ラ・トーレ (=塔の上から)」をかけて命名された。実際に当時のニルンベルクで活躍した音楽隊とほぼ同じ編成で、歴史的な演奏を実践する専門集団として高い評価を得ている。

古楽 最前線! —躍動するバロック 2018 中世・ルネサンスを経ての開花—初期バロックまで

Vol. 1 レクチャー&コンサート 四元素でたどる音楽史 ~中世からモンテヴェルディまで~ 11/2 [金]19:00	Vol. 2 《聖母マリアの夕べの祈り》 11/7 [水]19:00	Vol. 3 スペイン再発見 —Rediscovering Spain— 11/11 [日]14:00
Vol. 4 バッハとそれ以前の時代 —Bach and before— 12/20 [木]19:00	Vol. 5 オペラ《ポッペアの戴冠》 2019 1/19 [土]14:00	5公演セット券 ¥30,000 好評発売中! [いずみホールフレンズ会員 ¥27,000] オンラインでも購入可能! チケットの問い合わせ・お申し込みは いずみホールチケットセンター 06-6944-1188 (日曜・祝日 休業)



いずみホール [一般財団法人住友生命福祉文化財団]

〒540-0001 大阪市中央区城見1-4-70

●公演内容については一部変更される場合がございますので、ご了承ください。●お席は全席指定です。●チケットの料金には消費税が含まれています。●未就学児童のご入場はご遠慮ください。●学生券はいずみホールチケットセンター窓口のみお取扱いしております。(限定数)

古楽最前線! —躍動するバロック 2018 Vol.2 ユースシートご招待

先着順 限定数

「本物の感動を今、若い世代に」体験していただくため、この公演に青少年をご招待します。この機会にいずみホールでクラシック音楽を聴いてみませんか。

- 対象 小学生以上 18歳以下 (公演当日、年齢の確認できるものをご持参ください)
- 申込開始 一般発売日2月2日(金)10:00~
- 受付 いずみホールチケットセンター

くわしくは いずみホール ホームページ <http://www.izumihall.jp> または、いずみホールチケットセンター 06-6944-1188へ

※お席は選べません。 ※16歳未満の方は大阪府の条例により保護者の同伴または同意の上、ご来場ください。(同伴者のチケットは別途お買い求めください)

いずみホールへのサポートに感謝いたします。

オフィシャル・スポンサー (五十音順・敬称省略)

株式会社NTTデータ
総合警備保障株式会社
中西金属工業株式会社
住友生命保険相互会社

大阪西運送株式会社
大日本印刷株式会社
パナソニック株式会社

株式会社きんでん
株式会社竹中工務店
株式会社ベルシステム24

塩野義製薬株式会社
トランスコスモス株式会社
株式会社ヤマハミュージックジャパン